住宅特集

火災警報器　さらに普及へ

火災から命を守る―。煙や熱を感知し、警報音や音声で火災の発生を知らせる住宅用火災警報器の重要性が増している。火災に少しでも早く気付くことで、逃げ遅れてしまうリスクを減らせる。特にお年寄りや障害者が住んでいる家庭では、火災警報器が有効だ。消防庁の2012年度版消防白書によると、11年の出火件数が約5万件で、4年ぶりに増加した。火災警報器の住宅への設置が、義務化された現在でも地域によってバラつきがあり、一層の普及が求められている。

〝逃げ遅れ〟防ぐ

早期発見に 煙感知式

高齢化社会で役割重要に

出火件数はここ10年間、おおむね減少していたが11年は10年比7・3%増の5万6件だった。1日当たりに換算すると、137件発生したことになる。火災の死者数も減少が続いていたが11年は1766人で、10年よりも1・6%増えた。住宅火災はいつでも起こりうる災害で、身近なところに火災を発生させる多くの要因が潜んでいる。

冬から春にかけては火災が増える。11年の季節ごとの出火件数では冬季(12―2月)が1万4592件、春季(3―5月)は1万6252件で、件数全体の約6割を占めた。損害額も冬季は約275億円、春季は約490億円で全体の約7割に達する。気温が低く、乾燥する天気が続き、ストーブをはじめ火気製品を使うことが多いため火災が増えるとみられる。

出火件数のうち6割以上を占めるのが失火による火災だ。火気製品の取り扱いの不注意や火の不始末から発生している。火と可燃物の接触や火の消し忘れ、火遊び、電線のショートなど、未然に防げる要因も少なくない。また出火原因別の出火件数では放火が5633件で最も多い。03年以降おおむね減少が続いているものの、15年連続で出火原因の1位。放火の疑いを加えると9563件で火災全体の約2割を占め、損害額も約72億円に上る。どんなに用心していても、不審火による火災発生が後を絶たない現状を示している。

放火に次ぐ原因がたばこで4752件。燃えやすい物などの近くに放置してしまったり、消し忘れて寝てしまったりすることが多い。またコンロが4178件で、種類別ではガスコンロが大半を占める。消し忘れや過熱、可燃物との接触により火災が発生している。この他、たき火が3443件、ストーブが1609件、電灯・電話の配線が1446件など、さまざまな原因で火災が発生している。

また着火物ごとの出火件数は枯れ草が7826件で最も多く、合成樹脂の成形品や動植物油類、紙製品、寝具なども燃えやすい。「自分の家は大丈夫」というような油断は禁物。火災のリスクが住宅には非常に多いことを把握し、万一起きた場合の備えが常に求められている。

「火災警報器を取りつけていれば守れる命がある」―。ホーチキ営業統括部の木戸透雄課長は住宅用火災警報器の役割の大きさをこう強調する。

ホーチキは無線通信で連動する煙感知式と熱感知式の火災警報器を提供している。火災が発生すると、火元近くの警報器が「火事です、火事です」と出火を知らせるとともに、他の警報器も「別の警報器が作動しました」と伝える。段階的に音が大きくなる約90㌫の警報音も鳴ることで、「全ての人が安全に逃げられる」(営業統轄部)。

警報器の信号到達距離が、見通しの良い場所では約100㍍で、警報器に搭載している再送信機能により最大200㍍まで届く。障害物も迂回(うかい)でき、離れた警報器同士でも信号を送受信できる。火元の警報器からの通信が何らかの原因で届かない警報器には、他の警報器を経由して通信可能。いわば警報器間でバックアップしあうことで、火災の発生を的確に知らせる。常に通信していることで、故障や電池切れも通知する。

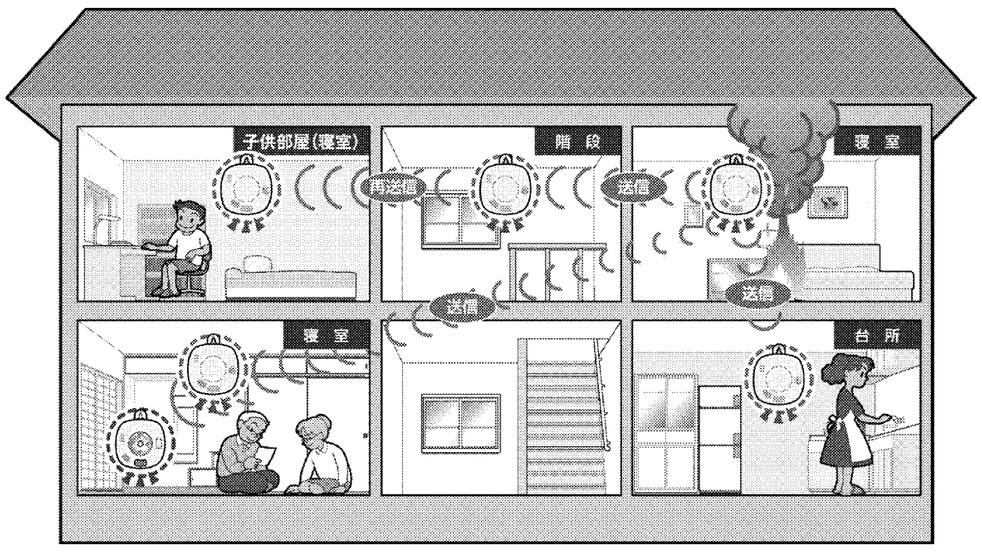
煙感知式には〝学習〟機能も搭載している。警報器に内蔵しているマイコンが、設置されている部屋の環境を把握し、部屋ごとに作動するまでの時間を制御する。例えば、煙が頻繁に発生しやすい台所と、煙が出にくい寝室では警報音が鳴るタイミングが変わり、誤感知を減らせる。賢い警報器のため火災を検知する精度が高く、木戸課長は「出火の早期発見には煙感知式が適している」と説明する。マイコンが警報器の検知能力を支えている。

警報器は縦100㍉×横100㍉×厚さ46・7㍉。コンパクトなデザインで、天井のほか壁にも掛けられる。「煙が天井から壁を伝って床に下りてくる」(同)ため、火災をいち早く感知できる。音声ガイダンスに従って「登録ボタン」を押すだけで利用可能。お年寄りなどでも使いやすい。15台まで連動するため、台所や居間、寝室、書斎など部屋ごとに設置して、火災から身を守る対策を強化できる。二世帯住宅や、住宅と母屋などでの火災を感知することが必要な世帯にも有効だ。

ホーチキは無線が届きにくい場所の警報器に、火元の警報器からの信号を中継する無線アダプターも提供している。警報器間に無線を遮る物が置かれていても火災を知らせることができる。警報器からの信号を受信すると、強い光と大音量で伝える補助警報装置も用意。聴力が衰えたお年寄りでも火災の発生が分かり、逃げ遅れてしまうのを防げる。また懐中電灯としても利用できる。

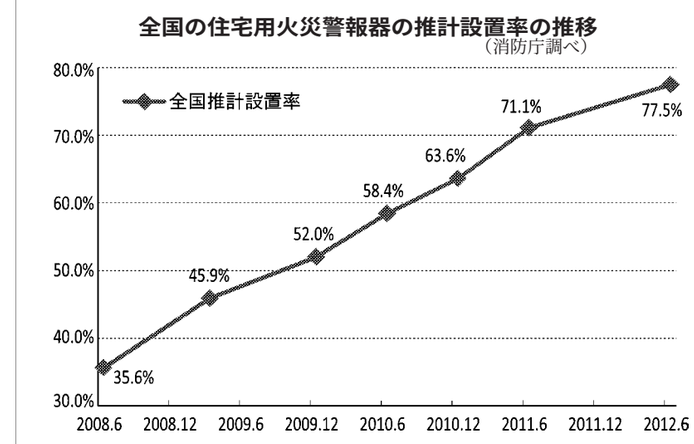
消防法の改正により住宅用火災警報器の設置が新築住宅で06年から、既存住宅では11年から義務づけられたが、自治体によって設置状況に差が生じている。12年6月時点で全国の推計設置率が77・5%。前年同期に比べて6・4㌽上昇した。都道府県別では福井県が90・2%で最も高く、宮城県や東京都、京都府、広島県などでも8割を超えている。一方、茨城県や沖縄県は6割程度にとどまっている。

警報器の設置が火災から家族の命を守れるかどうかを左右するといっても言い過ぎではない。日本火災報知機工業会(東京都台東区)では警報器の利用事例集を発行している。てんぷら鍋に火をかけたままテレビ番組に見入ってしまったり、寝たばこを消し忘れてしまったりといった身近に潜む火災のリスクとともに、警報器の設置場所も紹介。警報器のより一層の普及に取り組んでいる。国内では急速に高齢化が進行し、これまで以上に住宅火災などへの対策が求められている。



ホーチキの火災警報器は無線で連動しており、火災発生を迅速に知らせる

コンパクトな壁掛け型
(ホーチキの火災警報器)



工事現場の防災・防犯

抑止力が重要に

住宅の安全・安心に向けた取り組みの中で、取り残された形なのが工事期間中の防災・防犯。先日も国道工事現場から3㌧近い大量の銅線が盗まれた事件が発生した。これに限らず、昨今の不況の影響か、ここ数年金属材料や重機の盗難が問題となっている。比較的規模の小さな住宅建設現場でも、家具や建材、ユニットバスなど設備類の盗難が表に出た以上に存在するともいわれる。

絶えずモノと人が出入りする工事現場では、コスト面からも入退出の徹底管理は難しい。工具などが紛失しても、騒ぎになるのをきらい、当事者の不注意として処理するケースが少なくなかった。だが、盗難以外にも落書きや嫌がらせなどのトラブルに悩む現場は絶えない。事故や盗難の対策として保険制度もあるが、いったん問題が起これば近隣に不安感が生じる。施主はもとより、住宅メーカーをはじめ、施工側のイメージダウンにつながりかねず、住民感情まで考慮すれば、未然に防ぐのが理想だ。

この状況を前に工事現場の監視システムを扱う企業も徐々に増加している。例えば仮設足場で知られる三共は、数年前から工事現場の防犯提案を展開している。目的と予算に合わせ、暗証番号付き扉や不審者通報機能を持つモニタリングカメラなどの防犯アイテムを組み合わせた防犯プランニングから設置まで行う。好評なのが「クライムバスター」と呼ぶ24時間録画監視カメラ。電源が切られても充電池で録画を継続し、夜間は赤外線録画に切り替わる。人の出入りの確認はもちろん、警告シートと合わせれば抑止力も期待できる。

大規模改修などリニューアル工事を想定して開発したが、予想以上に新築現場からの引き合いが多かった。一般にトラブルの対処は現場監督に任される。大手では同時に複数の工事を担当するのも珍しくなく、年末年始など長期休暇期間も気が休まらない。相次ぐ事件に困り果てた現場に導入した際は、「まさに泣かんばかりに歓迎された」(同社)ことも。今後は、一部に試験導入した現場映像をオンタイムで確認できるシステムを、さらに発展・普及させたいとしている。

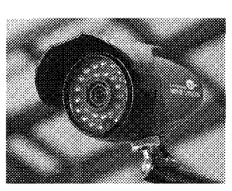
わが国ではこれまで、工事の効率化と品質向上には実に多くの知恵が注がれてきた一方、それ以外は現場力に頼るきらいがあった。個人の才覚に任せるのではなく、誰でも使えるしくみを通じ工事環境を良くすることで、地域住民から信頼を得たり、企業のイメージを高めるのは可能だ。また、安心して働ける現場は建築離れが懸念される若い働き手を引き留める魅力ともなる。監視システムに限らず、別の角度・別の視点からより良い住まいづくりを考えるのも、時に大切なのではないだろうか。

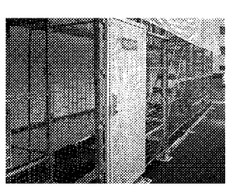
出入り口を記録する監視カメラ

新築やリフォーム中の
住宅工事現場の
防犯対策
ご存知ですか?

狙われやすい夜間・連休などの資材盗難や不法侵入対策に。

イタズラやクレームなどの近隣対策としても大好評


■クライムバスター
(仮設録画監視カメラ)
敷地境界や資材置場などの死角になりやすい場所も、24時間録画を続けるクライムバスターで監視します。


■クラレスドア
(仮設防犯扉)
狙われやすい足場の階段入口も、開扉には暗証番号の入力作業が必要となるクラレスドアでしっかりガードします。

セブン足場　工事現場の防犯対策はセブン足場へ。　セブン足場　検索

株式会社 三共　〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満4-4-13 三共ビル梅新　TEL.06-6311-1230 FAX.06-6311-1240

お住まいのリフォームと一緒に、「安全」と「安心」もリフォームしませんか?

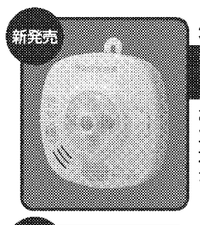
ホーチキの安全・安心よくばり計画

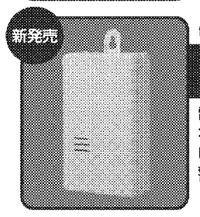
ホーチキなら、壁掛けタイプだから、取り付け「かんたん」!
●天井にも取り付け可能です。

ホーチキの無線連動式住宅用火災警報器で、ワンランク上の安全・安心を。

新無線連動方式

取り付けた警報器どうしがお互いに情報交換し、より確実な通信相手を見つけることで、常に最適な通信ルートを選択します。

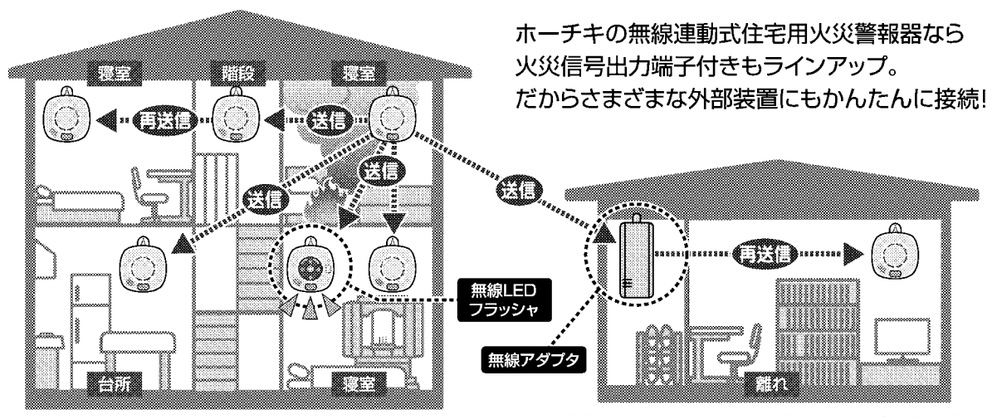
新発売

大きな音と強い光(フラッシュ)でお知らせ!
無線LEDフラッシャ
SSFAHCC型
お年寄りや目・耳の不自由な方の部屋や、火災警報器の付いていない部屋などには、大きな音と光でお知らせする無線LEDフラッシャを取り付ければさらに安心。

新発売

電波の届きにくい所でも確実に無線中継!
無線アダプタ
SSIAHCC型
電波の届きにくい場所の警報器に、火災を発見した警報器からの火災信号を中継します。母屋の離れを連動させる場合や、警報器間に遮へい物がある時に効果的!

●「無線LEDフラッシャ」と「無線アダプタ」は、当社の無線式住宅用火災警報器と同じグループとして連動が可能です。

取り付けた部屋の全ての警報器が作動。■ 火災信号出力端子付き ■

ホーチキの無線連動式住宅用火災警報器なら
火災信号出力端子付きもラインアップ。
だからさまざまな外部装置にもかんたんに接続!



注意)使用場所の環境などにより、電波の到達距離は変わります。必ず通信テストを行ってください。

火災報知・消火・トンネル防災・情報通信・出入管理など各種システムの製造、販売、施工、保守
ホーチキ株式会社
本社 〒141-8660 東京都品川区上大崎2-10-43 TEL03(3444)4111 FAX03(3444)4118
http://www.hochiki.co.jp